

1. 単元名

地域のお気に入りの場所を伝えよう！～わが町高野口のPR大使として～

2. 単元の目標

・地域の歴史や文化、自然、産業などの基礎知識を身に付け、地域の特性や魅力について理解し、調査やインタビュー活動を通して、情報収集の方法を学び、適切に活用することができる。
(知識・技能)

・集めた情報をもとに地域の魅力を整理・分析したり、他者に伝えるために必要な資料を取捨選択したりして表現力を高めることができる。
(思考・判断・表現)

・地域の魅力を探究する活動に積極的に取り組み、PR大使として自らの役割を果たそうとする態度を育み、地域への帰属意識や誇り、ふるさと愛をもち続ける姿勢を養う。

(主体的に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、わが町高野口のPR大使として『高野口大好きMAP(仮)』を作成する活動を通して、ふるさとを愛する心を育てることをねらいとしている。マップ作りでは、町探検の中で気付いたことを中心に自ら問いを立て、今と昔の町並みと比較しながら、町の歴史にも注目させたい。また、必要に応じて調査(見学やインタビュー)を行い、ふるさとの魅力に気付くことができるような手立てとしたい。

また、運動会の表現運動で使用した『高野口SAMBA(ウインズ平阪氏)』の楽曲を用いながら替え歌の作詞をしたりダンスを考えたりして高野口への誇りと愛着をもつことができるような動機づけとしたい。

【キーワード】紀北地方の中心地/空海で有名な高野山の麓/和歌山と大阪の県境に面した/紀ノ川が流れるパイルの町/春は庚申山のみごとな桜吹雪/夏には紀ノ川のカップ祭り※橋本市の「紀ノ川祭り」と橋本市高野口町の「紀ノ川カップ祭り」が統合し、2013年に「紀の川橋本SUMMERBALL」が誕生/世界に一つの僕らのふるさと/もう一度この町見つめ直して など

(2) 児童観

本学級の児童は、1・2年生で町の自然や商店街について学習している。1年生では、地域の自然や人との関わり、2年生では地域のお店との関わりをテーマに見学や体験を通じて学びを深めてきた。3年生になり、社会科で校区の学習をしたところ、多くの児童が町の公共施設について身近に感じているようだった。町探検では、4方位を意識しながら建物の位置関係を理解することができた。

今後は、高野口町の全体を把握した上で、地図記号を用いて公共施設をマップにまとめたり、自分が大好きな場所を自信満々に紹介したりして、ふるさと愛が感じられるような機会をもつように支援していきたい。

(3) 指導観

本単元の指導にあたっては、まず高野口の町の様子を知ることから始めたい。児童の視点で、よく遊びに行く場所や通学路、危険な場所を洗い出し、自分の生活との関わりを感じたり、未来に残したい魅力について話し合わせたりしたい。知ることから始め、地域への思い入れを強くするためにも地域行事や交流会への参加を積極的に進めていきたいと思う。そして、コミュニティスクール推進委員さんと協力し、児童のアイデアを活かした活動を目指したい。

また、過去・現在・未来のつながりを意識して、今自分たちには何ができるのかを考えさせる活動の中で、ESDの見方・考え方を働かせて探究学習を進められるよう「課題の設定」→「情報の収集」→「整理・分析」→「まとめ・表現」の4つの探究のサイクルを回しながら、課題解決能力も高めていきたい。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

有限性（限りがある）：地域に残る様々な「いいもの（有形・無形文化財や伝統など）」も、何もしなければ、将来無くなってしまう可能性がある。

連携性（力を合わせて）：一人ではできないことも、同じ志を（共通の目標）もった人同士で協力すれば大きなことも実現できる。

責任性（責任を持って）：「いいもの（有形・無形文化財や伝統など）」を残すためには、人任せにしないで自分事として捉え、行動に移すことが大事である。

・本学習で育てたいESDの資質・能力

【未来像を予測して計画を立てる力】

→過去・現在・未来のつながりを意識して、今自分たちにできることを考える。

【つながりを尊重する態度】

→地域の歴史的背景を学び、今と昔を比較することで様々な人とのつながりで今があるということを自覚し、尊重しようとする。

→自分がよいと思ったことは積極的に行動に移すことができる。

・本学習で変容を促すESDの価値観

【世代内の公正】

→自分たちだけでなく、地域に関わるすべての人と協力して世の中のために自分たちにできることを考え、行動する。

【世代間の公正】

→大切に受け継がれてきたものは、次の世代へときちんと引き継いでいく責任が今の時代を生きる私たちにはある。

【幸福感に敏感になる、幸福感を重視する】

→自分たちの世代だけが幸せであることが、将来的にも幸せであるとは限らない。

・達成が期待されるSDGs

1 1 住み続けられるまちづくりを

1 6 平和と公正をすべての人に

1 7 パートナーシップで目標を達成しよう



4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に取り組む態度
<p>① インターネットや図書資料を活用して、課題について調べている。</p> <p>② SDGsを意識したまちづくりのよさについて理解している。</p> <p>③ 地域の現状を捉え、地域のよさや魅力と課題の両面があることを理解している。</p> <p>④ 地域には、様々な立場の人がいることや、その人々の思いや願いに気付いている。</p> <p>⑤ 地域社会とのよりよい関わり方に気付いている。</p>	<p>① SDGs意識したまちづくりについて、必要な情報を集め、わかりやすくまとめている。</p> <p>② よりよいまちづくりのために自分たちにできることを、様々な立場から考え、課題を設定している。</p> <p>③ よりよいまちづくりのために集めた情報を取捨選択したり、比較したりしながら整理・分析し、具体的な活動計画を考えている。</p> <p>④ よりよいまちづくりのために自分たちにできることを、わかりやすく提案している。</p> <p>⑤ 活動を通して、よりよいまちづくりのために自分が携わる方法を考え、提案している。</p>	<p>① SDGsを意識したよりよいまちづくりに関心を持ち、進んで調べたり、考えたりしようとしている。</p> <p>② 地域の現状や人々の思いや願いを基に、自分にできることを考え、活動している。</p> <p>③ 活動を通して感じたことや、友達の提案を生かし、自分にできることを考え、活動している。</p>

5. 単元構想図（全88時間）※社会科18時間+総合的な学習の時間70時間



校区には、知らない建物や場所がたくさんありますね。これは、数年前に制作された高野口の建物の歴史マップです。何年前の建物なのかな？今も残されているのかな？

登校する時にその建物の前を通るよ。

ある、ある。家のすぐそばにあるよ。

地域の行事でこの場所を使ったことがある

実際に町探検に行って、どんな建物や場所があるのかを調べに行こう。

校区には、どんな建物や場所があるのだろうか？（数年前と今とではどのようなちがいがあのだろうか？）



校区を4つのエリア（東西南北）に分け、全員で町歩きを行う。どこに？いくつ？どんな？⇒校区地図に記録していこう！

井戸やお地蔵さんがあったよ。きれいな状態で今も残されているんだね。

今はもう閉まっているみただね。お店は、いつまでやっていたのかな？

井戸やお地蔵さんはだれが
管理しているのかな？

昔ながらの建物やお店があるけど、
昔はどんな町だったのかな？

校区にある建物や場所は、だれがなんのために管理しているのだろうか？（今も残る理由を探ってみよう・・・）
地域の人にインタビューに行こう！（各グループに分かれて見学を行う）

見学先で知り得た情報※9月以降の活動とする。

地域の人たちの手で今も残されていることを知った。

未来につなぐことを意識して、
地域行事を行っているんだ。

自分たちの知らないところで、地域（地域
住民）のことを考えてくれていて嬉しい。

わたしたちにも何かできることはないだろうか？

わたしたちは地域の人から大切に
思われ、守られているんだな。

地域の人たちの思いに応える
ために何かできないかな？

地域のよさを知るために地域行
事に積極的に参加し、地域の人
ともっと仲良くなりたいな。

地域のよさを伝えるためにふるさと
学習で『高野口大好きMAP（仮）』
のことを伝えよう！

地域の人々の今後の動き（計
画）についてお家の人に聞
いてみようかな。

6. 単元の指導計画（全88時間）※社会科18時間＋総合的な学習の時間70時間

次	主な学習活動（○） 児童に期待したい反応（・）	学習への支援（●）	評価（△） 備考（・）
1 み つ め る	○みんなが生活している高野口の町を探検し、町の課題と今後の見通しをつかむ。 ・シャッターが閉まっているお店が増えている。 ・地域の方の困り感に耳を傾ける。	●まずは、社会科との関連を図り町の様子を知ることから始めさせる。 ●気付いたことなどを全体で共有し、「このままではいけない」という気持ちを高めさせる。（自分事になれるかどうか）	△ウ①②
2 し ら べ る	○町探検での気付きや地域の方から寄せられた困り感などをもとに、見学やインタビューをする。 ・今後、今ある商店街はどのようになっていくのだろうか。 ・地域の人とはどのような思いをもっているのだろうか。 ・わたしたちにできることはないだろうか。	●自分たちの気付きをもとに、過去・現在・未来について考えさせ、今何ができるのかを見学やインタビューを通して考えさせる。 ●児童が見学やインタビューをしやすいように同じ考えをもつ児童同士でグループを作り、見学やインタビューの支援を行う。 ※児童たちに見学依頼を行わせる。（電話・依頼書）	△ア①② ③④⑤

3 ふかめる	<p>○再発見した地域のよさ（魅力）をどのようにして伝えればより多くの人の心に訴えかけられるかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットには載っていない切実な思いを伝えるための効果的な方法を考えよう。 ・人の思いだけでなく、自分たちの町への思いも綴れるようにしたい。 ・児童だけでなく保護者の意見も入れられるといいかもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●児童が自分たちで得た情報をもとに、「地域のよさ（魅力）を伝える」という目的に立ち返らせ、手段だけでなく、どのようにすれば人の心に響かせられるかを考えさせる。 ●高野口のまちで育つ自分たちの提案や保護者の思いも何かしらの形で伝えられるように促す。 ●調べてわかったことを他のグループや学年と交流し、外部の視点を取り入れる。 	△イ①② ③④⑤
4 ひろげる	<p>○地域のよさ（魅力）がいっぱい詰まった探検マップ『高野口大好き MAP（仮）』を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で暮らす多くの人の心に呼びかけるマップを作りたい。 ・観光マップとして、本校創立150周年記念式典及び市制20周年記念式典に使用してもらおう。 	<ul style="list-style-type: none"> ●伝えたいことを地域マップにまとめる活動を通して、地域への帰属意識や愛着を育て、自分たちにできることへの達成感を味合わせたい。 ●達成したことをもとにふりかえりを行わせ、来年度以降の活動につなげられるようにする。 	△ウ③ ・本校創立150周年×市制20周年

7. 考察（成果と課題）

（成果）

- ・有限性（限りがある）、連携性（力を合わせて）、責任性（責任を持って）のESDの3つの価値観に焦点を当ててきたことで、地域を愛する気持ちが芽生え、地域を大切にしようという思いが行動に表れ始めた。（挨拶やゴミ拾い等）
- ・児童の興味関心の高い場所を自己選択させることで、意欲的に質問内容を考える姿が見られた。（普段利用している場所がどのような経緯で今に至っているのかもっと聞いてみたい、今後どのような展開を考えているのか知りたい等）

（課題）

- ・社会科の授業で町探検を行ったが、「課題の設定」の場面で予想以上に時間がかかった。その要因として、地域の方々と接する機会を十分にもつことができず、地域の方の生の声や思いを十分に聞き取る機会をとることができなかったことが考えられる。
- ・「地域を知ること」、「地域のことを他者に伝えること」、「自分たちが地域を好きになること」等をテーマにESDを始めたが、「高野口のまちが大好きだ!」という事前アンケートとは裏腹にその気持ちを前面に出して活動することができている児童が少数だったので、残念に思った。児童を「自分事」にさせるしかけづくりが不十分だったと振り返る。
- ・児童の学習状況を把握し、適切な資料提示や外部講師との関わりをもつ機会のタイミングを意図的に行えなかったことが心残り。今後の指導改善に努めたい。

（今後の展望）

- ・ESDを進めていくことで、他教科との関連を図り、授業内容を深めることができたり、教育課程を効果的に実施したりすることができる。（カリキュラムマネジメント）
- ・ESDを進める際に、単元構想図をかくことから始めると自分が思い描く指導内容の軸を見つけ出すことができ、児童にとって有意義な学習活動になることが期待できる。
- ・現在、「まとめ・表現」の段階で児童が主体的に活動できており、今後の変容が楽しみ。

現在の学年終了時に目指す姿

自分たちの住む地域に誇りと愛着をもち、一人ひとりが町づくりの当事者であることに気付くとともに、多様な人たちと協働してよりよい社会のための行動を自ら起こすことができる。



こんなに歴史あふれるところで生きていけるなんて幸せなことなんだなあ。

この町がどうすればもっとよくなるか真剣に考えていきたい。

社会科「わたしたちの住んでいる町(市)」

初めての社会科の学習を進めるにあたって、まず町探検を行った。方角や地図記号を学習した上で、地域の土地勘を養い、地域の中の学校であるという認識を強くもたせるようにした。

また、地域の一員として自分たちには何ができるのかを考えさせ、行動化への意欲をもたせる。

総合的な学習の時間「高野口のまちの好きを伝え合おう！」

社会科で学習したことをもとに、町の案内マップを作ることに決めた。作る過程で、同じ目的をもっている2年生と交流する活動を取り入れることで、互いの高野口愛を再認識できるようにしたい。また、今後どのような活動を進めていく必要があるのかを話し合い、より深いふささと学習を目指す。

総合的な学習の時間

「地域のお気に入りの場所を伝えよう！～わがまち高野口のPR大使として～」

○主に養いたいESDの資質・能力
未来像を予測して計画を立てる力

高野口のまちのよさを守り続けていくために、自分たちが大人になった時のことを考えさせ、今の行動が未来へとつながることを意識させる。

世代間の公正

住みよい高野口のまちであり続けるためには、今自分たちが未来について自分事として考え、行動を起こすことが大切である。

○主に育てたいESDの価値観
責任性（責任を持って）

「いいもの（有形・無形文化財や伝統など）」を残すためには、人任せにしないで自分事として捉え、行動に移すことが大事である。

自分たちの町にはこんなすてきな場所がある！

町の魅力を絶やさないためにも私たち一人ひとりが努力しないと！

誰かに任せきりにするのはなく、私たち一人ひとりが町づくりに関わっていかねばならない。

国語科「わたしたちの町のよいところ」(光村図書)

「しょうかいする文章を書き、感想を伝え合おう」の単元では、自分の住む町には、どんな場所や建物があるかを理解し、町のよいところを文章に書いて、紹介する機会を設けたい。さらに、町のどんなところが好きなのかを具体的に示し、その場所が自分にとってどんなもの（存在）なのかを考えさせたい。

国語科「お気に入りの場所、教えます」(光村図書)

学校や地域には、様々な場所があり役割を果たしている。そこで、地域の中で普段利用している場所について見つめ直し、自分のお気に入りの場所（好きな場所）について発表する機会を設ける。
また、お気に入りの場所のことが、聞く人に分かりやすく伝わるように、発表する力を養い、地域への積極的な発信へとつなげていきたい。